

京の大人の英知、注入マガジン

京都 CF

[シー・エフ]

BACK ISSUES

お近くの書店でお求めになれない場合、ご希望の号数と部数をお電話もしくはファックスにてフェイム事務局までお申し込み下さい。在庫の確認をさせていただきます。その後、代金と送料を切手でお送りいただければ、到着し次第ご送付いたします。

No.247

2004.8th



特集
イクタイ床
イケル床
オトナ里

定価350円
(送料100円/1冊の場合)

No.246

2004.7th



特集
愛して、
北山。

定価350円
(送料100円/1冊の場合)

No.245

2004.6th



特集
老いも若きも、
喫茶慕情

定価350円
(送料100円/1冊の場合)

No.244

別冊京都CF!



京都ブランド vol.5
訪ねやすい
京都の町。

定価800円
(送料105円/1冊の場合)

年間定額購読

1年限分の「京都CF」を銀行引き落としにて、4,200円(内、消費税200円)で予約購読していただけます。お電話もしくは巻末ハガキにてご連絡ください。改めてお申し込み用紙をお送りいたします。

フェイム事務局

〒604-8194 京都市中京区六軒通南丸東入 大塚六角ビル2F
TEL. 075-256-7558 FAX. 075-256-7557

ホームページからもお申し込みできます。

<http://www.m21.or.jp/fame>

こっそり部屋の本棚におきたくなるバックナンバーです。



クレープ素材Tシャツ企画開発者

稗 真平

HIE SHINPEI

【プロフィール】78年京都市生まれ。クレープ肌着に特化して縫製を手がける会社(山城)の企画生産主任。2004年6月より、10色展開の意匠Tシャツブランド「Yamashiro」の販売を始める。今後の策として京都限定モノやキャミソールなどの新ライン展開を計画中【クレープとは…】正しくは「近江ちぢみ」と呼ばれる。横糸に強い撚りをかけてシボを立たせた、伸縮性に富む平織物の名称。アコーディオン状になっているため肌への接地面積が少なく、その布の溝の中へ毛細管現象で汗が吸い込まれる構造

真っ白な素地から生まれた 京都ブランドニューカマー



綿のTシャツとして存在する衣服の中で、おそらく最も軽く涼しい製品。薄手ながら洗ってもヨレず、アウトターとしてのファッション性を保つ



黒地Tシャツは10色。メンズ・レディース各2タイプずつの展開。京友禅の和風柄や、絞り染、果てはオーダーメイドと次世代型の構想も着々と進む



購入は店舗とFAXおよびHPでの通販にて。「3000円以上の黒地Tシャツを買うか？」との自問の結果、1枚2100円~2520円のラインを堅守する

京 TIAN I.D.
キョーティアンアイディ
The 116th person

クレープ、と行って「ああ薄手の夏生地ね」と判る人はさほど多くはない。ステテコの布地と聞いて膝を打てればまだしも、ギャルに至っては平然と「私へ、生クリーム派あ」と答える始末。

クレープ地とは横ストレッチの効いた綿素材の織物だ。よく汗を吸い着心地も軽く、じめじめ蒸し暑い日本の夏には何より肌に心地いい素材である。しかし近年はそのあまりのアダルトリーな印象から需要は先細り、特に若い世代にはほとんど馴染みがない。だからこそ、それを食べようとする女子がいなくても不思議はないともいえるのだが、これが家業に伝わるたったひとつのテクスチャーであり、これから一生向き合っていく立場の20代青年には少々厳しい状況ではあった。なにしろ、「食べ物じゃなくて」というリセットから全てを始めなくてはならないのである。

父の昔中を見ていたとは言え、21歳で「山城」の大分工場へ修業に行くまでは「ただの遊び人」。培ってあり得べき技術も知識もなかった。木屋町の夜に北べ大分はひたすら田舎に思えたり、日がな一日白一色の下着づくりに鬱憤も溜まる。たまの休みに京都へ帰っても「例えばパーベキューに行くでしょう。火を熾した所で帰らないと、次の日の仕事に間に合わない」。ならば、仕事を楽しくするはか無かった。「とりあえず色物をやったらちょっとは楽しいかな、と思った」のが、全ての発端である。まずは染めの勉強から。はじめて見る多彩な色のクレープは、インナー作りを楽しみただけでなく、普通の服としても着られそうに思えた。思うが早いか立体裁断を学び始めた真平さんの頭の中には、既に京都発ブランドとしての京ちぢみTシャツ(Yamashiro)が描かれていたという。

しかし、染めはもちろん裁断や縫製、遑ては布地そのものさえも、(山城)のそれは下着のために積み上げられてきた技術である。ことTシャツ向けには隔りがある。普通ならこういう場合は外部発注に出すものだが、それら全てを真平さんは自ら学び直した。職人気質というでもないらしい。「外注にかけると言うことさえ思いつかないシロートだった」彼は、つまるところ、それまでのクレープ地と同様にただ真っ白な原石素材だったのである。

着想から3年はたっただろうか。様々な人の協力を得て「下着ではないクレープ、ニットではないTシャツ」は未曾有の混沌を滑り出して、ようやく製品として人の身体に纏われはじめた。いずれ手描き友禅絵師やテイストの違う別ブランドとのコラボも確立する。新たな京ブランドの生まれる瞬間である。

Information

●株式会社 山城

■京都市中京区富小路三条下ル朝倉町539

☎075-221-4456 FAX.075-221-4506

◎10:00~19:00/無休 <http://www.coolwear.biz>